

国立病院機構熊本医療センター

No.148



# くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

## 新病院が完成しました



院長  
池井 聡

長年の願望でありました新病院が完成致しました。9月12日に新病院内覧会並びに落成記念式典、9月22日に患者移動を行い新病院での診療を開始致しました。新病院はこれまで通り熊本城二の丸に位置し、延床面積41,789㎡と旧病院の約

1.9倍の広さになりました。主玄関のある4階が外来部門になり、各診療科の外来診察室のほか、救命救急センター外来、CT、MRIや血管造影装置などの画像診断センター、化学療法センターを設けました。5階は救命救急センターと手術センター、透析センター、病棟です。6、7階も病棟になります。病床数はこれまでと同じ550床ですが、個室が151室、うち有料個室を現在の18室から107室に増やし、入院中の患者さんのプライバシーの確保やクオリティの向上を図りました。救急救命センター病棟は34床から44床になり、手術センターは7室から10室、透析センターは10床から20床に増やし、新たにCCU（循環器集中治療室）を開設しました。

主玄関は4階で石垣の上ですが、新町側の道路近くの1階に歩行者用玄関をもうけ、ここからエレベーターで4階に上がれますので、悪評高かった国立の坂登が解消されました。またこれまでの25診療科を細分化して32診療科として、医療設備もCTはSIEMENS社製128列など2台から3台に増設し、放射線治療装置はリニアック、ラルストロンともに最新式のものに更新し、診療機能の向上を目指しています。まだこれから旧病院の取り壊し、駐車場整備の工事が残っており、その間駐車場が手狭でご迷惑をおかけしますがご理解賜りますようお願い申し上げます。

新病院になりましても、これまで通り開放型病院、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院として、かかりつけ医の先生方のご協力のもと医療連携を推進するとともに、救命救急センターを中心に病院全体で「何時でも」「何でも」引き受ける断らない救急医療を継続して参ります。さらに、これからも地域の急性期中核病院としての責務を果たすとともに、教育、研修、研究にも力を入れていく所存です。

今後ともよろしくご指導、ご協力下さいますようお願い申し上げます。



新町方面から望む



テープカット



新病院完成記念式典



## “オートプシー・イメージング(Ai)の現況”

川口病院

副院長 川口 英敏

「autopsy imaging、Ai」とは死亡後にCT、MRI、超音波等を用いて画像診断を行い、剖検と組み合わせて死因の解明に役立てようとする新しい検査概念です。

私が当院で検屍をするようになったのは平成になってからですが、当初はCPAで来院し、蘇生しなかった例を外表検査、既往歴、後頭下穿刺のみで判断していましたが、ほとんど死因は不明と思われ、平成10年よりCPAの症例を中心に死後のCT検査を開始しました。

死後のCTは生体の場合と同様に出血性病変や、骨折の診断に有用でしたが、CTで所見のない場合は、そのほとんどを心臓死とせざるを得なかったことから、平成13年から心筋トロポニンT検査も開始して死体検案に応用し、「日本警察医会」「国際警察医会」等で発表したり、東北大学の「法医学の実際と研究」に投稿してきました。

この頃まではpost-mortem CTと言っていたのですが、放射線医学総合研究所重粒子医科学センター病

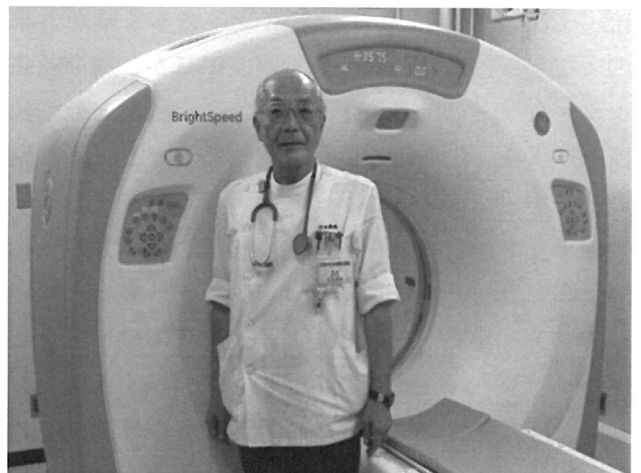
院の江澤英史先生が平成16年にAi学会を発足されて、当院にも来られましたので、私もAi学会に参加し発表するようになり、Aiが日本中に広がってきました。江澤先生は非常にユニークな先生であり、「海堂尊」というペンネームの「チームバチスタの栄光」という本で日本ミステリー大賞を受賞されていて、平成19年に刊行された「死因不明社会」(Aiが拓く新しい医療)はぜひ皆様に一読されることをおすすめいたします。

Aiの結果ですが、CTで内因死の約30%、外因死まで含めると50%の死因が診断できました。

又、CTで診断できる内因死の中で最も多いのは、胸部解離性大動脈瘤破裂です。これはAi学会でどの施設もほぼ同様の結果で、外表検査では全く診断できません。

Ai学会の認定施設は、最初は昭和60年より開始した筑波メディカルセンター病院で、当院は2番目の認定施設となっています。

このように救急を積極的にやっていた為Aiを行ってきましたが、そのため熊本医療センターにも大変お世話になっていますが、今後ともよろしく願います。



## 第27回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会開催のお知らせ

標記連絡会を下記の要領で開催します。先生方はもとより看護部門、事務部門、MSWなど多数のご参加をお待ち申し上げます。なお連絡会の前に新病院の見学ツアーを行います。ご希望の方は当日受付で申し受けます。

日時 2009年10月5日(月)午後7時～午後9時

場所 国立病院機構熊本医療センター 2階 地域医療研修センターホール

内容 1. 開放型病院連絡会総会

1) 新病院の部門紹介 2) 新病院における共同指導手続き等のご説明

2. 意見交換会

会費1,000円は、当日受付で申し受けます。

※病院見学 午後5時30分～午後6時30分

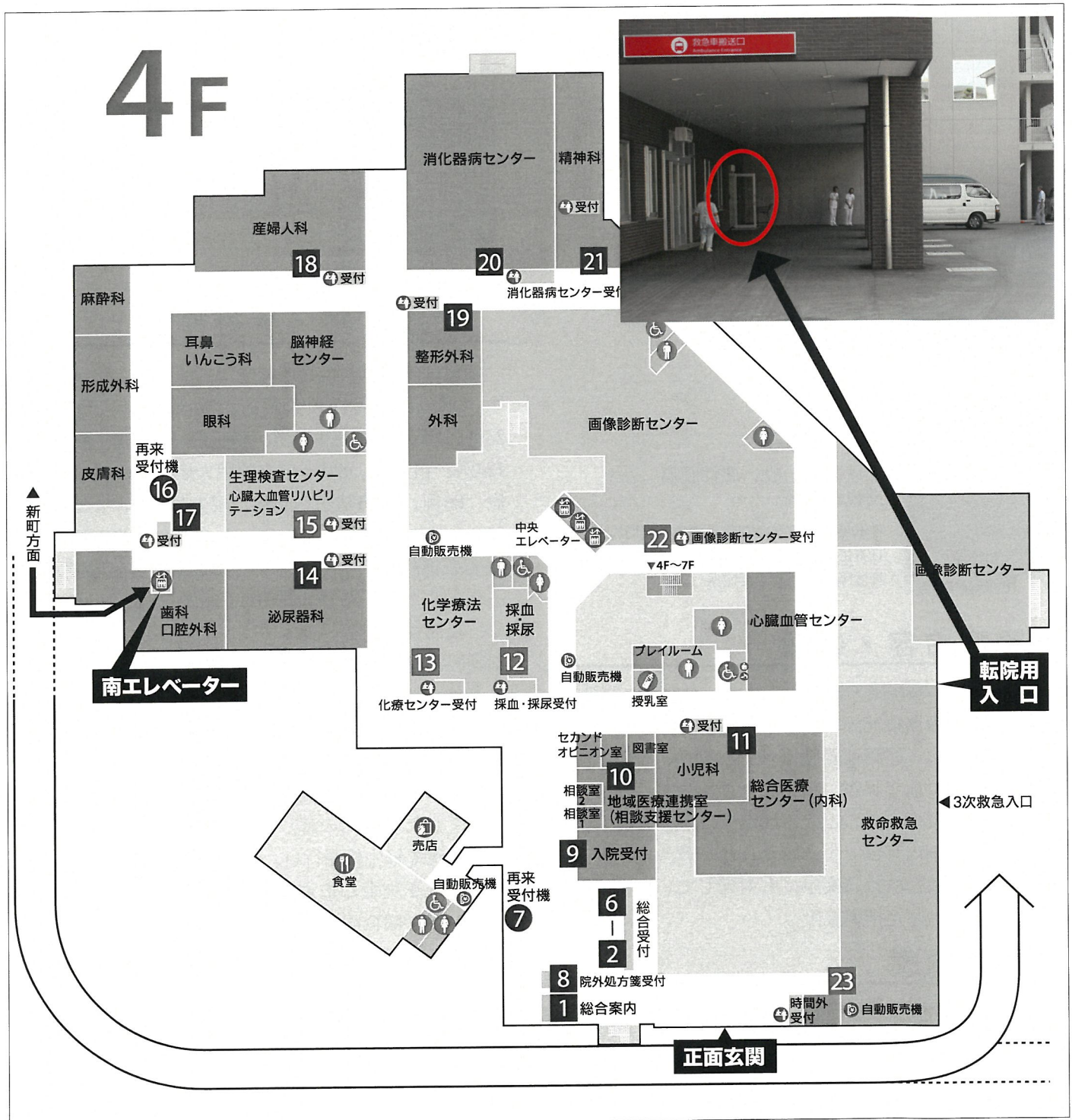
【参加申込先】国立病院機構熊本医療センター管理課(担当:高倉、牧野)

〒860-0008 熊本市二の丸1-5 TEL 096-353-6501 (内線390)

# 新病院での病院車による受診方法について

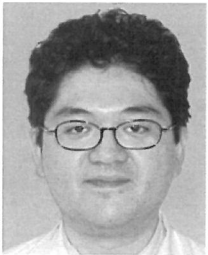
9月24日（木）より、入院、外来受診時に病院車で来院される患者さまの入口が、4階3次救急入口奥の「転院用入口」となります（下記図面及び写真参照）。今まで通り「転院用入口」に当院受付職員が待機しており、新規患者受付、再来受付及び入院受付等のご案内をいたします。また、紹介元等への転院につきましてもこの「転院用入口」をご利用頂くこととなります。病院入口（ゲート）職員に「外来受診、転院患者さまの迎え等」申しつけ下さい。「転院用入口」をご案内いたします。判らないことなどお気軽に受付職員にお尋ね下さい。

今まで同様、地域医療機関の先生方のご利用をお待ちしています。 （副院長 河野 文夫）





**医長**  
**菊川 浩明**  
泌尿器科一般、神経因性膀胱、  
悪性腫瘍、鏡視下手術  
日本泌尿器科学会認定指導医・専門医  
日本泌尿器科学会評議員  
身体障害者福祉法認定医（膀胱）  
日本がん治療暫定教育医



**医長**  
**陣内 良映**  
泌尿器科一般、悪性腫瘍、  
鏡視下手術  
日本泌尿器科学会認定指導医・専門医  
日本泌尿器科学会評議員  
日本がん治療認定医



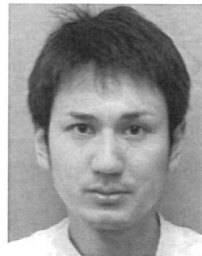
**医師**  
**瀬下 博志**  
泌尿器科一般、悪性腫瘍  
内視鏡手術  
日本泌尿器科学会認定指導医・専門医  
日本泌尿器科学会評議員  
身体障害者福祉法認定医（腎臓）

### 診療内容・特色

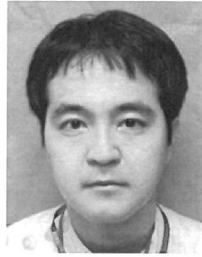
尿潜血精査から尿路・性器悪性腫瘍、小児泌尿器科、尿失禁・下部尿路機能障害まで、泌尿器科全般を行っています。特に、尿路性器腫瘍（腎細胞癌、腎盂・尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌）の治療には力を入れており、膀胱癌を中心とした尿路上皮腫瘍は、手術数においても国内有数です。また、救命救急センターとも連携し泌尿器科救急疾患にも対応しています（日本泌尿器科学会認定指導施設）。

### 外来診療

月	火	水	木	金
陣内 良映 土岐 直隆	菊川 浩明 瀬下 博志 仲西 寿朗	担当医 (初めての方のみ)	陣内 良映 土岐 直隆 山口 隆大	菊川 浩明 瀬下 博志



**医師**  
**仲西 寿朗**  
泌尿器科一般  
日本泌尿器科学会認定専門医  
日本がん治療認定医



**医師**  
**山口 隆大**  
泌尿器科一般、内視鏡手術、  
泌尿器科救急疾患  
日本泌尿器科学会認定専門医



**医長**  
**土岐 直隆**  
泌尿器科一般、神経因性膀胱  
日本泌尿器科学会認定指導医・専門医  
日本泌尿器科学会評議員

### 診療実績・手術件数

病棟は泌尿器科疾患で常時30名前後の入院があります。平成20年度の新入院患者数は796名（腎細胞癌25例、腎盂尿管癌59例、膀胱癌188例、前立腺癌124例、精巣癌8例、前立腺肥大症56例、尿管感染症86例、尿路結石45例、尿失禁5例など）で、前年度より90名程増加しました。平均在院日数も13日前後を推移しています。外来は1,022名の新患受診がありました。尿路悪性腫瘍は伝統的に得意とする分野で、浸潤性膀胱癌に対しては、放射線科の協力で抗腫瘍剤動脈内注入療法を施行後、内視鏡切除（TUR-BT）を追加、膀胱温存を目指し良好な結果を得ています。膀胱全摘が必要な場合は、尿路変更として自然排尿型新膀胱形成術（Studer法）も取り入れています。平成13年に開始した鏡視下副腎・腎・尿管手術も60例に達しました。増加の著しい前立腺癌に対しては、まず1泊入院で針生検を行い、外来で病期診断を行った後、治療方針を決定します。ホルモン治療や手術、放射線療法など、総合病院の特性を活かした治療選択枝を揃え対応しています。平成20年度の総手術件数は351件でした。

## 新任職員紹介



画像診断センター

放射線科

いのうえ せい しろ  
井上 聖二郎

平成21年10月より放射線科で勤務させて頂くことになりました井上聖二郎と申します。平成19年に熊本大学医学部を卒業し、熊本大学附属病院初期研修医

(1年目は下関厚生病院、2年目は熊本大学附属病院で勤務)を経て、平成21年4月に熊本大学附属病院放射線医学教室へ入局致しました。今回、新病院移転後1週遅れでの勤務となり、旧病院で勤務出来なかったことが少々残念です。放射線科医としてはまだまだ未熟ではございますが、今まで学んで参りましたことを生かして、精一杯頑張りたいと存じます。色々と御迷惑をお掛けするとは思いますが、御指導のほど宜しくお願い致します。

## 第6回 熊本EBMセミナーのお知らせ

この度、国立病院機構熊本医療センターでは、東京医科大学国際医学情報学教室のJ.P.バロン教授をお招きして、「国際学会の発表の仕方、英語論文の書き方」のご講演を賜る予定でしたが、バロン先生のご事情によりご来熊できなくなりました。そこで、私が急遽代役を務めさせていただきます。当日は、私がバロン先生にご指導していただいた内容をもとに、英語論文の書き方、論文の体裁、カバーターの書き方、オンライン投稿の仕方などを講義したいと思います。私自身、バロン先生のご指導により、欧文雑誌での採択率が明らかに上昇しましたので、ぜひご参考にさせていただきたいと思っております。

また、国際学会の発表についても、プレゼン・ファイルの作成法、発表および質疑の時の注意点など、バロン先生にご指導いただいた内容をお伝えしたいと思います。最後に、先日オーストラリアで行われた万国科学会で発表した当院の小寺先生にプレゼンを行っていただき、参加者と英語プレゼンの方法について討議したいと思います。皆様、奮ってご参加ください。(臨床研究部長 芳賀 克夫)

平成21年10月3日(土) 10:00~12:00

国立病院機構熊本医療センター 3F 地域医療研修センター

国立病院機構熊本医療センター 臨床研究部長 芳賀 克夫

「国際学会の発表の仕方、英語論文の書き方」

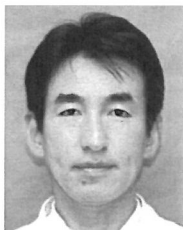
ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

## 最近のトピックス

### ビスフォスフォネート(BP)製剤と顎骨壊死



歯科口腔外科

医長 中島 健

BP製剤は選択的に破骨細胞のアポトーシスを惹起させ、骨吸収を抑制する作用を持ち、骨粗鬆症、悪性腫瘍における骨転移、高カルシウム血症、多発性骨髄腫などに投与される臨床的有用性の高い薬剤です。最近では、作用のより強い薬剤が開発され、使用量はそちらへシフトしています。

BP製剤による顎骨壊死 (Bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaws, 以下BRONJ) は、最近、学会等でもよく取り上げられています。発症した顎骨壊死の対応には洗浄など対症療法が中心で苦慮しているのが現状です。

BRONJは、抜歯や歯周病治療、インプラントなど一般に外科処置を契機に発症しますが、外傷や義歯性の粘膜潰瘍により起こることもあります。典型的には顎骨の疼痛や骨の露出を起し、治療に対し抵抗性で治癒が認められないことが多く、さらには病的骨折や皮膚瘻孔をきたすこともあります。米国口腔外科学会によると、BRONJの臨床診断基準は①現在あるいは過去にBP治療歴があること②8週間以上持続する骨露出あるいは骨壊死③顎骨への放射線治療歴のないこととされています。

BRONJの発生頻度は、欧米ではBP注射薬で1%前後、さらに抜歯を行った場合7~9%、BP経口薬で0.01~0.04%、抜歯後は0.1~0.3%と報告されており、注射薬の方が頻度が多く病状も重いものが多いようです。

病理組織的には細菌コロニーや炎症性肉芽で覆われた壊死骨であり、口腔内の細菌の関与が濃厚です。よって、BP製剤を投与する際には、感染源の除去(抜歯、歯周治療など)ならびに口腔衛生教育が必要で、外科処置後は1か月ほどの骨治療期間を待ってから投薬することが推奨されています。また投薬中の顎骨に侵襲が及ぶ治療に関しては日本口腔外科学会のガイドライン(表)があります。

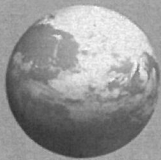
最近の研究では、BP製剤投与前と投与中の口腔ケアがBRONJの発症を抑制させることが報告されており、口腔ケアの重要性がますますクローズアップされてくると考えています。



写真 75歳女性 ゾメタ投与中に骨壊死を起こした症例(左側下顎)

#### 表 BP投薬中の口腔外科治療の指針(要約)

- ①内服期間が3年以上あるいは3年未満でもステロイド薬を併用している場合や危険因子(糖尿病、喫煙、化学療法など)のある場合は、BP内服中止可能であれば3か月は中止し手術を行う。手術後も骨の治癒傾向を認めるまで(2~3か月)休薬
- ②BP内服期間が3年未満で危険因子のない方は通常通りの口腔外科手術を行う
- ③BP注射薬による治療中はできるだけ口腔外科手術を行わない



# 国際医療協力

## タイ、コンケン病院ならびにコンケン大学病院視察を終えて



総合医療センター  
血液内科医長

武本 重毅

この度タイのコンケン病院より姉妹協定締結の希望があり、視察のためにタイのコンケン市へ平成21年8月30日から平成21年9月3日まで赴きました。これまでコンケンと熊本は大学間交流が医学部同士で行われてきました。コンケン病院は当国立病院機構熊本医療センターと同じように地域の臨床医療の中心的な存在であり、癌化学療法、外傷救命センター、臨床研修センター、看護教育などほとんど我々の病院と同じような環境を整備しています。今回病院の質の向上を目標として掲げ、国際的な交流を始めるにあたり、その相手として熊本の当病院を選んだようです。私は当院の代表として、熊本大学教授の岡田誠治先生とともにコンケン市を訪れ、コンケン病院での会議と病院見学、さらにコンケン大学病院での会議と病院見学と精力的に情報収集してまいりました。

コンケン市はタイ東北部のイサーンと呼ばれる地域のモデル都市として建設されました。のどかな田園風景の中にあり、ほとんどの住民が農業で生計を立てています。昔懐かしい熊本、阿蘇の風景といった感じですが。コンケン県の人口は熊本県とほとんど同じ170万



当院について紹介

人で、その教育の中心はタイで6番目に設立された歴史あるコンケン大学が担っています。その一方で我々の病院と非常に似た機能を有するのが、今回の姉妹協定の相手であるコンケン病院です。1951年に設立され867ベッドを有しています。先述しましたように、我々の病院とほとんど変わらない活動を行っており、さらなる飛躍のために国際協力体制を築くことになりました。

今回このような機会を与えていただき、心温かく、熱心に日々の診療と教育に力を注いでいるタイ、コンケンの人々と知り合うことができました。この秋、2009年11月中旬にはコンケン病院の首脳陣が訪れ、姉妹協定締結を行う予定です。今後も当院が担っている国際協力にお役に立てればと思います。



コンケン病院各代表との意見交換



コンケン病院代表者たちと

## 研修医レポート

### 臨床研修医

1年次 なかにし 中西 としひと 俊人



こんにちは。2009年4月より国立病院機構熊本医療センターにて研修医としてお世話になっております中西俊人と申します。この春佐賀大学医学部を卒業し、故郷である熊本に帰ってまいりました。

さて4月から始まった私の研修生活ですが、救命救急部・外科での研修を終え、現在は麻酔科でお世話になっております。救命救急部では、毎日救急車の数に圧倒されながらあっという間に日々が過ぎていきました。当院の救急部は救急車を原則断らないという体制ですので、勤務内容は非常に多忙なものになります。しかし、そういった忙しい仕事の中でも、笑顔を忘れず礼節をもって患者さんに接する先生方の姿には非常に感銘を受けました。また、ルート確保や採血などの基本的な手技から非常に親切にご指導いただき、医師としてのスタートを素敵な先生方に囲まれ

ながらきることの出来た自分は恵まれていたと感じています。

外科での研修は外科の先生方のパワフルさ、長時間の手術の過酷さに驚かされました。それと同時に、外科ならではの先生方のチームワークの良さに魅力も感じました。また、自分よりずっと先輩の先生に「外科に来いよ。待っているからな。」と声をかけていただいたり、一緒に飲みを誘っていただいたりと、忙しい毎日ではありましたがそれを楽しく充実していると感じながら2ヶ月間研修することができました。

現在の麻酔科では、麻酔の導入・維持・覚醒までの麻酔管理、気管挿管や脊椎麻酔など多くの手技を経験させていただいています。初めは責任の大きさに対する不安が強くプレッシャーを感じることもあったのですが、今はそういった経験が自分の糧になっていると実感できてきております。

以上のようにこれまでの5カ月を振り返ると、非常に充実した環境のなかで研修生活を送っていることを嬉しく思いますし、またさらに日々努力を重ねていかなければと身の引き締まる思いです。まだまだ医師と呼ぶには未熟な私ではありますが、自らの理想とする医師像に向かって努力を重ね、また今後とも多くの方々にご指導・ご鞭撻をしていただきながら日々精進していきたいと思っております。今後ともよろしく願いたします。

### 臨床研修医

1年次 ひらた 平田 たかし 敬



いつもお世話になっております。今年熊本大学医学部医学科を卒業し、4月より国立病院機構熊本医療センターで研修をさせて頂いている研修医1年目の平田敬と申します。4月に麻酔科からローテートを開始し、5か月目の現在は外科をローテートさせて頂いています。外科の研修ですが、毎朝7時45分から、前日手術を行った患者さんの回診を行い、その後ほぼ毎日手術を行った患者さんの回診を行います。だいたい夕方まで手術を行った後、17時からその日手術をされた患者さんの回診を行います。その後、指導医の先生と担当の患者さんのところに足を運ぶといった感じです。

症例としては食道癌、胃癌、肺癌、大腸癌、鼠径へ

ルニア、虫垂炎、胆嚢結石、痔核などを経験させて頂いています。外科での研修も残り2週間程度になりましたが、少しでも先生方のお役に立てるように日々成長していきたいと思っています。

救急外来の当直は月4回程度で、当院は救急車搬送台数が県内トップクラスということもあり、様々な症例を経験させて頂いています。今、緊急で処置が必要かどうかの判断を、毎回上級医の先生方から学んでいます。また研修医はルート確保、血液ガス、創縫合、気管挿管などの手技もたくさん経験することができるので、研修医にとってはとても恵まれた環境だと思います。

10月以降は内科系のローテートを行う予定です。上級医・指導医の先生方には迷惑をかけることも多々あると思いますが、少しでも多くのことを吸収していきたいと思っておりますので、ご指導の程よろしく願いたします。



# ■ 研修のご案内 ■

## 第98回 三木会 (無料)

(糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成21年10月15日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

### 1. 「血栓性静脈炎を起こした肥満を伴う2型糖尿病の1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

仙波宏史、花谷聡子、児玉章子、高橋 毅、豊永哲至、東 輝一朗

### 2. 「糖尿病の地域医療連携パスについて」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

豊永哲至、仙波宏史、花谷聡子、児玉章子、高橋 毅、東 輝一朗

### 3. 「高血糖を契機に発見され肺動脈サンプリングで局在診断に至った異所性ACTH症候群の1例」

土井内科胃腸科医院 糖尿病・内分泌科 土井 賢

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5705

## 第129回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶平成21年10月19日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

日常診療の悩みを解決します。ぜひ、ご参加ください。

### 1. 柏原医長による胸部レントゲン読影

### 2. 持ち込み症例の検討

3. 症例検討「ステロイドが著効したANCA関連腎炎」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科 田尻 景子

4. ミニレクチャー「閉塞性心筋肥大症の治療について」 国立病院機構熊本医療センター循環器内科 本多 剛

悩んでいる症例、これは情報共有したいと思われる症例をお持ち下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第96回 総合症例検討会(CPC)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

日時▶平成21年10月28日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ: 急激な臨床経過をたどった急性膵炎 (70歳代 男性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器内科 片山 貴文

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理室長 村山 寿彦

「昨日からの心窩部痛、背部痛があり胆嚢の腫大を認め近医に入院していたが、急激な背部痛の憎悪があり緊急で転院となった。」

\*臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー(解説)の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽に参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

## 医学生の為の病院見学のご案内

国立病院機構熊本医療センターでは、医学生を対象に病院見学を受け付けております。日本でも有数の救急車受け入れ実績を有する救命救急センターや鏡視下手術、造血幹細胞移植や血管再生療法など最先端の医療を垣間見ることができます。お申込みは国立病院機構熊本医療センター管理課鶴見(TEL096-353-6501)迄ご連絡下さい。

※見学の際は、白衣と大学名、氏名の記載してある名札をご持参下さい。

詳細については：<http://www.hosp.go.jp/~knh/> まで

2009年

# 研修日程表

10月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

10月	研修センターホール	研修室 2	その他
1日(木)			7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
2日(金)			8:00~8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
3日(土)	10:00~12:00 第6回 熊本EBMセミナー 「国際学会の発表の仕方、英語論文の書き方」		
5日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
6日(火)			15:00~19:00 外科術前後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
7日(水)			17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
8日(木)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会		7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
9日(金)	18:00~20:00 熊本地区核医学技術懇話会		8:00~8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
13日(火)	18:00~19:30 第49回 くすりの勉強会(公開)		15:00~18:30 外科術前後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2 18:30~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
14日(水)	18:00~19:30 第59回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)		
15日(木)	19:30~21:30 第52回 有病者歯科医療講演会 座長 前熊本市歯科医師会会長 古賀 明 「乳癌の治療-日常診療で知っておきたいこと-」 医療法人社団秋月会 みわクリニック院長 秋月 美和	19:00~20:45 第98回 三木会 (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [日本糖尿病学会指導士認定更新のための研修単位<2倍>0.5単位認定]	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
16日(金)			8:00~8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
17日(土)	9:30~16:00 第25回 ナースのための心電図セミナー 〈講演〉心電図の基礎 各種心疾患における心電図 不整脈 〈実習〉心電計の取り扱い方	国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 宮尾 雄治 国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 藤本 久和 末藤内科循環器科院長 末藤 久和 国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 藤本 和輝 国立病院機構熊本医療センター循環器科 古賀 英信 国立病院機構熊本医療センター循環器科 本多 剛 国立病院機構熊本医療センター循環器科 金澤 尚徳	
19日(月)	19:00~20:30 第129回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
20日(火)			15:00~19:00 外科術前後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
21日(水)		13:00~17:00 糖尿病教室	17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
22日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
23日(金)			8:00~8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
24日(土)	9:10~17:10 第2回 ナースのための癌性疼痛緩和ケアセミナー 〈講演〉1. 痛みのメカニズムと癌の痛み 2. 痛みのアセスメント 3. 悪い知らせを伝えるコミュニケーション (SHARE) 4. 疼痛緩和の実際 (オピオイド療法) 5. オピオイドが効きにくい時の対応 6. 呼吸困難・消化器症状・精神症状への対応	国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 国立病院機構熊本医療センター麻酔科 宮崎 直樹 国立病院機構熊本医療センター副看護師長 岩井 幸 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長 上妻 精二 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・ICU室長 瀧 賢一郎 国立病院機構熊本医療センター麻酔科 小寺 厚志	
26日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
27日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会 (※2階研修室1にて開催します)	15:00~19:00 外科術前後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
28日(水)	19:00~20:30 第96回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「急激な臨床経過をたどった急性膵炎」		17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
29日(木)			7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
30日(金)			8:00~8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2

C1 3階カンファレンスルーム1 C2 3階カンファレンスルーム2 5西 5階西病棟 外来 小児科外来 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手 手術室  
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター  
TEL 096-353-6501 (代) 内線2630 096-353-3515 (直通)